第2回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日時		令和6年3月25日(月)　13時30分～14時45分
場所		美濃加茂市役所本庁舎3階　第3会議室及びオンライン会議
委員	出席者	【産】(株)フジイ　代表取締役　金森　薫氏 【官】岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター　センター長 上谷　直美氏 【学】中部学院大学短期大学部幼児教育学科　教授　杉山　祐子氏 【金】東濃信用金庫美濃加茂支店　支店長　佐藤　幸一氏 【労】ハローワーク美濃加茂　所長　大嶽　欣也氏 【言】みのかもフリーペーパー歩好里人　代表　安藤　摩里氏
事務局		経営企画部　企画課

1　開会

2　あいさつ

3　令和4年度総合戦略アクションプランの進捗状況・実績【確定値】について

【事務局】

・令和5年9月に開催した第1回アドバイザー懇談会において、「ヘルステック健康のまちづくり事業」の実績値(KPI)が未確定であったが、実績値が確定したことを報告。

・アクションプランに掲載している事業の KPI において、一部指標の表記や数値が間違っていたため修正を行った。

4　第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮)の方向性について

【事務局】

・現在の第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略が令和6年度を以って終了するに伴い、次期総合戦略となる、第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮)の方向性について協議を行った。

　第3期総合戦略は「教育」の分野を柱とした戦略とし、基本方針に反映させていく。

　メッセージの発信としては、市内には「市民のウェルビーイングを向上させ、美濃加茂市に住み続けたいと思えるまちを作っていきたい」ということ発信し、市外には「市民が住み続けたいと思う魅力あるまちである」という形で発信していく。

・第3期総合戦略を策定するにあたり、当市もデジタルを活用した政策を行うことを必要不可欠であると考えているため、国が策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を

勘案する。
・第2期総合戦略は、「女性活躍推進計画」と一体型になっているが、第3期総合戦略を策定する際には切り離して計画を策定する。女性活躍推進計画は独立して、ひとづくり課が主管課となり継続して計画を進めていく予定である。よって、第3期総合戦略に紐づく事業に女性活躍に関する事業を積極的に選定しない。
・KPI（成果指標）は、市民満足度調査や小事業調書の KPI を設定して、分かりやすく測定しやすいものとする。
・新たに第3期総合戦略推進アドバイザーを選任して助言・提言をいただく。アドバイザーは「教育」に関する有識者等から選任する。

5　人口推移について
・美濃加茂市の総人口は微増ながらも増加傾向である。日本人の人口はわずかに減少しているが、外国人の人口が増加していることが大きい。
・令和5年12月に「国立社会保障・人口問題研究所」から公表された2020年～2050年までの各自治体の人口減少率において、本市は県内で一番減少率が低い（4.8%減少）結果となった。また、2023年、県内市町村男女別転入超過において、本市は県内で転入超過数が一番多い（298人）結果となった。このような結果となった要因として、推察ではあるが、本市は鉄道及び高速道路が整備されて交通の便がよく、名古屋市や岐阜市まで1時間程度で移動できる。また、近隣市に比べ地価が安価であることが関係しているのではないかと考えられる。ただし、今後、全国的に人口は減少していくものであり、本市も例外ではなく、若い世代の人口が減少し、高齢者世代の人口が増加していく傾向である。

6　意見交換会
【アドバイザーからの意見】
・教育や子育てをテーマに戦略を策定している自治体はたくさんある。美濃加茂市ならではの戦略にするために、美濃加茂市の特徴である多文化共生、中山道などの歴史や文化、充実した医療と福祉などを勘案しながら策定していくとよいのではないか。また、ハード面に注力するのかソフト面を注力するのかなども考慮してくとよい。
・女性活躍の面で、国は働くことを推奨しているが、子育ても女性活躍の一つと捉えている。美濃加茂らしさをみせる中で、そういった部分を取り入れていくと他自治体との差別化につながっていくと思う。女性に子育てを楽しんでほしい。
・将来、仕事するときに、学問だけ優れていても、心と体がたくましくないと続けていくことが難しく、心が弱くうつ病になる人が増えている。そういった面も含めた教育を行っていくと美濃加茂らしさが出てくるのではないか。
・施策の一つに、子育て支援センターの利用者があるが、男性の育休も増えてくる中で、女性向けだけではなく父親も、参加がしやすい行事などを実施していくと子育てする親たちが住みやすい地域になるのではないか。
・新聞での記事で分析をしてみえたとおり、女性が住みやすい、活躍できる地域は、若い人

たちが定住又は U ターンなどしてくるということが、カミーノを策定して進めてきた結果が表れてきているのではないかと感じた。
・人口の推移に関しても、女性・若者に視点をおいて、どの分野にもジェンダーの視点をひとまず、考える必要があると思う。ジェンダー・ギャップのある部分は、どんなところに原因があるのか分析して、それを解消するような施策を継続して行うと、（例えば姫ビス、リオラの運営等）人口激減ということはなくなると思う。
・単に補助金を出すだけの事業にしてほしくない。
・金融教育＝投資というイメージが強いが、お金を管理することも大事で、最近はキャッシュレス決済の時代になり、お金の管理を学ぶ機会が無くなってきている。所得はしっかりとあるのに、娯楽費などに大きく費やすなどお金の管理ができない家庭が増えてきている。大人になったときに困らないように、お金の管理ができるような金融教育を取り入れてはどうか。
・優れた技術・商品を持っていても、後継者がいないため廃業になってしまうなど、後継者不足が深刻な問題となっている。そういった企業の技術等を残すための企業マッチングを金融機関や商工会議所が行っている。起業・創業も重要だが、雇用を守るためには事業承継も重要である。
・空き家対策として、市が個人と個人をつなげるマッチングを行うのはどうか。空き家を有効活用してほしい。
・生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加するとあるが、最近は定年延長もあり、65歳まで現役で働いている。従来の年齢枠に捉われずに、65歳以上の人もまだまだ働けるため、生産年齢の幅を広げて考えるなど視点を変えていくとよいかも。
・令和4年度と令和5年度を比較した時に、ハローワークの登録者数が20%ほど増加している。美濃加茂市で働きたいという人が増えている。
・14歳以下の外国人人口が増加していることは美濃加茂市ならではの特徴である。今後も定住し生活していくということが考えられるため、20年後、30年後にそういった外国人に対して市はどう関わっていくのか、今のままではなく、経済状況や時代の変化に適応した美濃加茂スタイルを考えていってほしい。

7　閉会